

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

景軌本紀

完

八万部十包

13
1963
50





大野屋惣八

彙軌本紀序

長嶋町五丁目
大野屋惣八

昔者司馬仙人登龍門

撥禹穴與天下之豪傑

游作史記本紀方今島

田金谷入大門撥二階

與天下之通人游作彙
軌本紀彼唐人竊語也
此江戸本枝也彼松江
之鱸不如日本橋之初
鯉彼新豐之酒焉及隅

田川之諸白乎夫不窮
河源者未睹崑崙不飲
水道水者惡稱所謂大
通者乎中立而不倚通
哉通教訓而不仕彙軌

哉彙軌本紀之名本不
 虛矣ウソナラ因テ染メテ如シヨ在サイ之ノ序ノ字ヲ
 以テ冠カウムラシムル于テ手又グヒノ拭ハシレ之ニ端ニ云爾
 天明甲辰松王正月
 武部源藏高第四方

山人書初



景軌本紀序

一圍之木持ハタモチキセンキンノヨククノ屋ニ分ブ

之金求カ子ハ傾ム城ビ之ビ美ナル矣ヲ鳴ル呼ル

東都之盛馬ナル車ヤ以テ言コト儻ヲ之アルモク

亦宜也ニ扶ホ桑ン橋バシ之シ魚イ火カ繼ナ而ハ不ズ

遺スキ四時ヨフヲ而ナク靡ワビキモ一匹ヨシ青樓ハラノ

娼妓ケイセイハ不待メ孔河ヒケヨ而ナシ靡ニ一人モ矣

辱カタシテナクモ以テ水道ノ之ヲ為ク產湯ウゲ

自ヨリ卑ヒキ窓ニト觀テ於シヤキヲ鱗タルノ而ヒト為ク長ナリ

德ハ者ニ則モ雖イウクニ孰ユクト之ソト曰ラシ賢ニ於ニ

序一

引ヒ米ケナ以ヤ換ム息ム子コ株カ平グ不ニ

可シ不シ郷モ食テ也ナ老ロウ子シノ曰ク費ワイ大ヤス空ク

若ゴト遺シ小ツ錢カ是セウ東ロ都ツ子コ之ノ

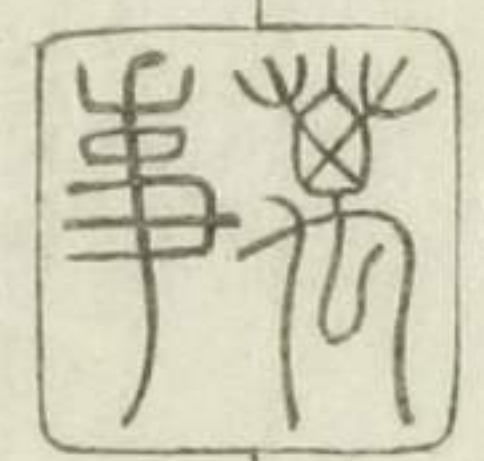
所ナリ顯アラハス氣キ情シヤウ也ナ多ユウ人ジン島シマ田タ

金マラハス谷ハス著キおオ彙イ軌キ本ホ紀キ

一 卷 既 於 於 當 河 之 窟
フヨソ サガシ
 後 聰 之 記 於 西 海 以 誌
ウカムノ ムキニ シルス
 序 之 余 亦 同 穴 之 務 與
セシコヲ モ ムジナ ト
 應 飲 迴 山 之 暮 鴉 俱 是
ヲウイ ヲコミ カニ ガラス トモニ タレリ
 繼 於 倥 侖 矣
ウクニ タハ ケヲ

序二

天 明 四 甲 辰 歲 孟 春
 口 唐 出 鳳 臺 讓 琰 撰



よ—京北 四方赤良

名—せと

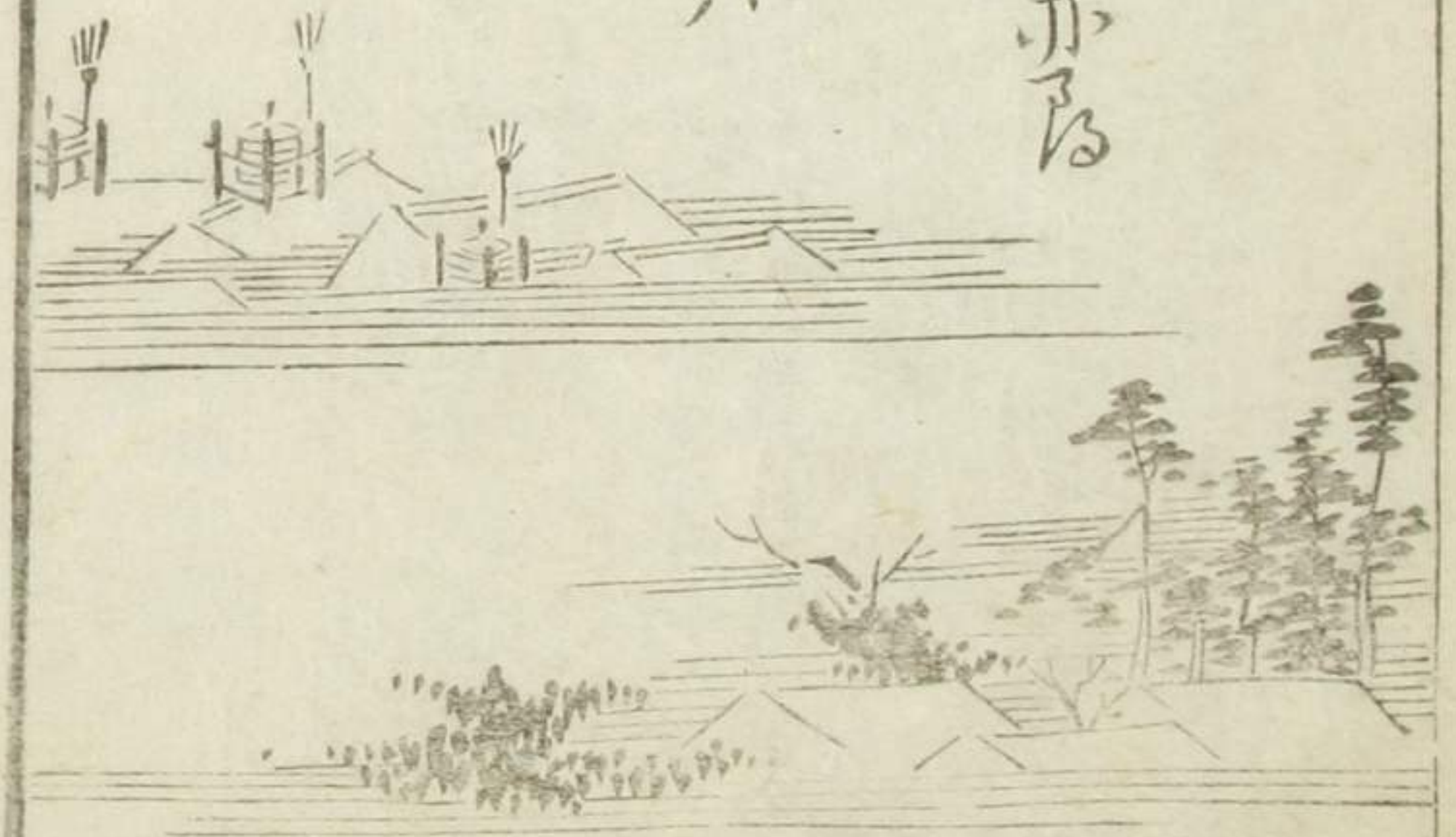
さる乃夕くらハ

入おの

侍子

花中

さく之



三

狂訓彙軌本紀

雲筑 島田金谷 纂系輯

口唐出 鳳臺 校訂

天照太神素盞鳴尊天津罪

を侵—たまひ—とを憎ませ

ふまひて。天の岩戸を閉り隠れ

しきり—くバ。天下やみともあふ

けり。八百萬乃諸く如神達
 太神宮をすけり。出奉らん宿小。
 庭燎^{ていりやう}以^も焚^{たき}神樂^{かむら}と奏^{そう}て世評
 多^{おほ}くい^いく^くは^は。岩戸^{いわと}少^{すく}くひ^ひきて
 御覽^{みかん}くくると記^し。世間^{よこ}の^のく^く
 人の面^{おもて}志^し終^はぐと見^みる^るは^は。面白^{おもしろ}と
 いふ^い。此^{こゝ}の^の起^{おこ}る^る。ま^まと^と岩戸^{いわと}を^を細^こ

目^めの^の明^ある^る。穴^{あな}規^ぎより目^め出^で度^どといふ
 詞^{ことば}も^もよ^よく^くま^まる^ると。齋^{いはい}藤^{とう}俗^{ぞく}談^{だん}を^を以^も
 外^{ほか}正^{ただ}し^しき^き書^か小^こ載^のる^る所^{ところ}といふ。今
 流行^{りやうぎやう}の^の詞^{ことば}。日本^{にっぽん}と^とい^いる^るも^も此^{こゝ}の^のと
 より出^でる^る。此^{こゝ}の^の面白^{おもしろ}と^と目^め出^で度^どと
 いふ^いと^と扶^{たす}桑^{そう}廣^{ひろ}く^くとい^いふ^ふも
 東^{とう}都^とと^と止^とま^まる^る。名^なと^とい^いふ^ふ日本^{にっぽん}橋^{はし}乃^の

側^{うしろ}魚^{ぎよ}店^{てん}軒^{のき}とあつて四^よ時^じとかけ
らず日^ひと千金^{せんご}を蓄^{たくわ}ひぬりかきん
百^{もも}かきん^の唐^{たう}音^{いん}ハ^の莊^{じやう}子^こ呼^よぶ^ま卷^{まき}
舌^{しつ}と争^あひ^そ。杓^{しやく}松^{そう}魚^{ぎよ}價^{あたい}百^{もも}貫^{くわん}と一^{いつ}
遠^{とん}近^{きん}に飛^とひ^い。鮒^{ぶん}鱧^{らん}ハ^の珠^{しゆ}王^{わう}子^こ換^かへ
東^{とう}西^{せい}と走^はる。鯛^{たい}を諸^{しよ}侯^{かう}と奉^{ほう}じ^の鮎^あろ
と下^げ賤^{せん}の食^くもぬ買^かひよる何^{なに}豚^{とん}販^{はん}

二

食^く屋^や乃^の廊^{らう}棒^{ぼう}年^{ねん}振^ふハ^の生^{なま}鱒^{ます}鱈^{たう}の
魚^い成^な售^うつ^て妻^{さい}子^こと峯^{やま}倉^{くら}ハ^の人^{ひと}物^{ぶつ}活^{かつ}と
と一^{いつ}勢^{せい}昇^{しやう}天^{てん}の龍^{りゆう}乃^の如^{ごと}く二^に合^あ
五^ご夕^{しやく}好^{こう}酒^{しゆ}に醉^{すい}つと源^{げん}ハと闘^{たう}
譯^{やく}となび。親^{おや}分^{ぶん}系^{けい}系^{けい}と制^{せい}すハ
雙^{しやう}方^{ほう}口^{くち}と閉^とじ^や止^とむ。和^わ睦^{ぼく}の河^か漏^{ろう}
ぬるまの異^い客^{かく}前^{ぜん}席^{せき}と殷^{いん}勤^{きん}あり。

さんちくくは焼灯々西國橋より
 長く納太刀き梁よりも大あり。
 ちんまのぶん佛乃大音ハ佛も
 耳と塞れ六根清浄乃驥劇ハ
 不動も逢上す有く梵天万度
 乃振ヤ一張込大牛多親分の流
 義と何小遠多延引の間逢先

刻先時乃誤片言生々よく通す。
 仙の字は手拭半顔とばふ糸は
 禪堂風々翻る般若の面女の首
 の入上標舌鬚長髪ハ仲間乃總
 あり相傳ハ顔見世乃積物扁屋
 が蒸籠らんびの空樽大路山と
 あり。若者中乃張札帳屋が筆

跡々見事あり。紋々乃手拭を
 木戸銭とりす。屯一とら手
 梅子近隣之響音も鳴雷も何や
 まるる。木戸番海老藏仕着も
 留場をハハのきり立花道と歩
 行す。棧敷の美人とをる。日り
 人中和割る山々手乃客とさる。

あま新小蒙る體に痣。鼻より
 張あみ口紅の多とを失ふ。太夫
 内簾の綿帽子も降積む雪う
 と疑も五間續け黒仕立洒落
 止時あく尚ある。山羽屋う折南鏡
 二片と以ぬ。まの梅子木小
 衆客名を直。頗が口上さる。

聞一む。首希のけ下り葉々。花當の
箸を投る。響の一響。吉例の角鬘
主膳が上瑠理を獅子乃吼る。小異
あし。ぞ立出る。柿乃素袍。悠々
し。多花道。子至。此を。喚言る。花
異口同音。ろし。積よ。さる。蒸籠
乃山々。響く。年々。歳々。おきり。ぬ

花柳似たり。打驚く。歎。役。隠し
て進む。と能。ま。ま。り。お。り。白。金
巾。地。乃。冠。ハ。天。幸。も。毎。ま。ら。ぶ。と。く。
姫君の危難を救ひ奉る。一刀の
下り首。百汲と伐る。大なる。裁
東都の親王。株。用。も。ち。ま。ハ。百
ハ。街。風。来。散。人。飛。ぶ。噂。を。誣。し。と

彼が氣象を賞す。極進ハ昔時の
傑足下を今日の勇奇多し。其
市川の藝術鳴呼はもと。獨
こゝの以て鑿と鼓バ儂子浪華は
客阿りむつと。曰。世出る儂の
東都自慢を上る。我问と阿里。
當世流行するも。何く我答

曰。其一二と擧る。三并穀系親
和染。元日茶とび色大名縞短脇
差。長羽織因果地藏之富の礼業立
妓者。子打何偏画。帝西落本。至
紐笛吹。接。女医者。志。西。一。と
豆藏の如し。亦向今浪華。小和歌
專行。東都。誰くぞ。答曰

四方赤良朱樂管江。かし衣橋洲平
原屋東作。もとむをく綱。智恵の内子
其外何ぞかかか。お誂誂
解庵獨庵木犀庵獅子眠を始也。
是まこ云もおさる也。画牘帝の
作者はいく年。喜三春町芝全交
此三子と上手と寸。上瑠理の力

ろろろ。鬼外先生没して後。紀の
上太郎。兵治尚衆貫四揚黛。鬼
眼と云々。おね言ハ。次助重助
專助馬靈。河竹金井を休しかぬ。
云おろろ。浮世画ハ。花監春章
清長湖龍。お磨向とありやいふ。
有とろく料理家をハテ。食類

とくにおもふ所。樽三升屋六飯
屋。葛西太島。大黒屋。浮瀬枕流
山藤庵。樂庵。百川。四季庵。四季
おろくおれ。献立。善。お。美。お
をり。客。日。を。や。て。手。を。打。て。曰。
恐ろ。お。ま。ま。東。都。の。盛。を。と。
他。邦。の。及。ぶ。所。と。非。ず。長。袖。能。舞。
ハ

又。錢。能。商。の。大。都。浪。華。の。肩。と
あ。ふ。あ。ん。と。虫。の。よ。た。の。甚。ま
か。り。願。を。先。生。後。々。青。樓。の
曲。を。辯。ど。め。へ。余。故。郷。と。帰。て
早。く。童。叟。の。傳。へ。再。い。東。都。小
来。て。扇。屋。の。天。井。を。見。ざる。如
一。助。と。ま。んと。混。空。の。求。々。應。ど

烟草四五粒とを食つる。又味噌を
 喫つて曰。此は共積礫而不窺玉淵
 者未知驪龍之所蟠也。おろし水
 道の流を食ども俗中よみあは
 ばいまど通うあるとあはれとま
 ず。余長命とて一々一世の形勢
 を見たり。母の胎内我出ると乳

汁を食ひ。おろし城根とあは
 る。鳥飼が羊羹を甘く旦
 暮り會殘魚を食いと他と
 止時奈く下稚が天願を木臭
 を撃つ小箒。乳母が結立乃
 髪をむしる。あは声四遊と驚
 一。蹴躡膝に埃す。手代大

おはしつゝ番太郎へ丁雅と走り
も長恋ぬらぬぞと鍬の
天神と嵐の嫁入の仲双帝と
を取来つて坊様と獻す二品と
投出しそ是でをちみと羽
こと己前と培す。伴頭が口小言
紛々として自身と人形丁へ

至り。角力取の木偶を買ふ
帰来つてまご坊様小敷す。漸
寛尔と一室床の間へかざり
長恋を相手とて喜氣満
面々なぶ。父母あまを見と能
を流し。戯場事のみやうある
代裏店の囃し傳ふ。巻詰るふ

と小栗殿の馬に如く。父母是
 4乗ト多々あると云はし
 駿劇とゆるす。草薙刀ハ
 の間と寒を。画草帛長持小
 餘る長松頁も此と錢と掠
 てる飴棒と。ちり大轉達
 糖の下昇と至ると湯俵

鼻唄。按廣大をけり。あまハ
 手下は伊之助とか。坊様の
 御氣4入り。傍輩を火
 寸。髪置袴着の御祝儀大丸
 越後屋と赤々錦繡を南
 定紋を俗字と。篆字小
 寿乃文字を縫せ。當日明神へ

詩^カを^イ密^ミに^ニ往^キ来^ス乃^ハ評^ヒ判^スと^ス。
俵^ヒと^ク味^ミ増^スと^ク上^ルと^ク火^ノ具^ト
櫓^ノり^テ高^ク乳^ノ母^ガ鼻^ヲ天^ノ狗^ト
倍^ス寸^ハ八^ノ歳^ノ頃^ノ義^ノ之^ノ流^ノの^ノ筆^ノ道^ト
を^シ字^バせ^シ四^ノ書^ノの^ノ素^ヲ讀^ムも^トす^マ
が^カ歌^ハ小^シ唐^ノ詩^ノ選^トと^ク太^平な^リ坊^ト
榎^ノの^ノ幼^キ子^ハ西^ノ風^ヲ吹^キ散^ルト^ク輕^ク

薄^ク子^ノ来^リ乃^ハ善^ク且^ニ耶^ト稱^ス才^ハ髮^ハ
頭^ノ上^ニ曲^シ羽^ノ織^キ地^ヲ拂^クと^ス
長^ク自^ラ讚^シ曰^ク匪^ト直^也人^ノ乘^ル
心^ノ塞^ム洲^ト野^ノ暮^ト見^ルと^ク上^ル
野^ノ下^ノ谷^ト見^ルが^カ如^シ茶^ヲ
千^ノ家^ヲと^ク了^シ以^テ俳^ノ諧^ヲ和^シ泉^ノ街^ノ
志^ヲと^ク百^ノ韻^一集^ト甘^ク

まじりも数多しを諸集に載るを。
十有五日しこえしめろ。御出入の
下庵老と。荒川の土橋といひし。
千々、律の調子に乗息劇する
こと甚しく。娼妓役者を通する
は案内をまじりし。お先つり
おと三年。牽頭持の不風流

善い者の生存在。船頭ハ諸侯
乃如く。客を倍臣と等しく。吉さん
源さんと舌長あり。おとさんお
ま川さんハ。割床新川の義兵衛
と隣り。終夜悪口乃巻物銭
まじり口説。あまう喧嘩あおね
更け分。ハ幡乃鐘声耳を

翫た。崩りく形容を正し深川と
出でさん橋より多水バ。娼婦漸
送ッテ。昔々此間之の一句ハ
しや言々と對無情あるふと
淡々しり。早あるふ深川乃
遊び檜木葺臺と踏すんバ
送み汚跡と魚をすすと。叢明

しや。一日知己相伴りて青樓に
至る中之街りて沽妓酒と
嚙して洒落するも。教刻容と
具より相集れ徒に蘭雨東洲
五調嘉隆目吉藤兵南等。啞ハ
百とありて。大声笑語して盛
ゆり。茲小能る魂を。めり宿

替寸。竄終。言娼家。之至。小。窓。
窈。々。老。乱。婢。始。々。雛。婦。琴。
を。彈。弦。と。鳴。一。々。館。中。塵。埃。を
拂。い。お。よ。一。々。馬。鹿。一。一。の
廓。言。ハ。十。寸。見。ガ。曲。声。と。争。い。高。
樓。銀。燭。乃。光。々。白。盆。乃。お。も。く。
並。立。々。々。臺。乃。々。々。ハ。上。座。上。々。

島。阿。る。う。と。疑。る。食。類。を。標。三。
舛。屋。ガ。風。流。を。志。々。一。酒。ハ。清。紫。
乃。下。流。を。汲。む。鑑。手。々。々。鑿。口。々。
益。樽。を。あ。ら。さ。す。向。僕。々。雛。婦。の
探。索。哉。戒。玉。閨。中。綾。羅。乃。三。ツ
め。々。人。金。屏。ハ。雪。舟。探。幽。と。雲。
上。ち。あり。客。小。使。者。亦。く。傾。城。々。

鄙俗びどくはく。濱街ひんがい先生の筆意ひついと
 學まなび。唐たう机きと和漢わかんの書しよを飾くそ
 王章わうしやう怯けつくく。温おんく和わくくととくく
 諸しよる。伴頭ばんとう雛妓ひなぎ小任せうにんす。調度用てうどよう
 物ものの價あひと志しくく。孔方こうわうは枚量めいりやうも
 志しくく。是しと性しやう悪あくの奥様おくさま小
 たたくく。ちちくくめてて知る深川ふかがわの夷狄いやく

あるとて。只ただの人の異い具ぐとて。曰いふ。
 傾城きやうじやうと誠まことあり。鶏卵たひなごの方かたある
 あり。若わ此この両品りやうひん何なにバ晦日くわいじつの魁かゑと
 月つき々々出でると。あま俗徒ぶくとの談だんとて。
 いまど娼婦しやうふと真まことあるを證あかしと足
 がる故ゆゑあり。古語こご曰いふ。臨困りんこん而して羨魚せんぎよ
 不知退しらずひきかへ而して結網けつわう。されの真偽まゐを論ろん

どんよりを己が傾城を大匠す
おあきを斬ぐ又謂傾城
誠が何れを運乃おと俳諧小
いへるどく。伴頭を顧は傾城
疎く。傾城と親かんとすは
家おさましく。あは是なること
かあく非也。非と士つる非を

あまハ。傾城乃誠心を見はあり。
商人の金を出して物を買ふも
錢の儲をまつはあり。其まきと
ふしをまつるも是一あり。は
鉦者と譏をうらむ。おとしはの
最上青ろうのたの心。智者とあり
愚者とあり。通とあり。野暮と

あるも何や。正ただ小こ金かね乃すなは多た少すくなる
益えき翼よく而して能よく飛と益えき足あし而して行ゆヤツサ
コラサの二百にひゃく猪いの牙ばハ船ふね州しゅうのをふ
まり付つ。サのめの来きるるするりもはの山さんとんり
ぬのくく金かねくく。名な廣ひろれる會あ日ひ乃すなは乃すなは席せき
河内屋かんなが高たかろうかみくおのめく
お羽織おと見みるるハ戴たいるる山さんとん

あのとと欲かくく。おのとと見みるると見みるる樂たのしい
ことけいくくくく。まののの棧せき敷し彦ひこ足あ世よ
乃のはのひひととおのとと雲くもととやや暗やみ雲くも小こ
驕おごりり而して乃のらら小こ身み上かみ散ちるる塵ちりとと
ある。忠ちゆう臣しんハ退ひきき任にん臣しんハの息いき子こ
田舎いんとと熱あつくく。地ち面めんハ野の暮くれとと被ひ令れい
各胸かく中ちゆう甚し高たかくくべんとと蘇そ秦しん張てう義ぎ

伐斯^{たき}也。桓^{つら}之^し。周公^{しゅうこう}呂望^{りょぼう}之^し。越^こ善^{ぜん}
之^し。邪^{よこしま}正^{ただ}暗^{くら}明^{あきら}之^し。白^{しろ}之^し。理^{ことわり}之^し。よ^よ之^し
知^{しる}之^し。も。行^ゆ之^し。ち^ち。文^{ぶん}音^{おん}之^し。人^{ひと}之^し
も非^ひ也。武^ぶ士^し化^か之^し。一^{ひと}之^し。宗^{そう}匠^{じやう}之^し。ち^ち。あ^あ之^し
商人^{しやうじん}入^い之^し。ト^と之^し。居^い候^{こう}之^し。ち^ち。あ^あ之^し
前^{まへ}分^{ぶん}之^し。曰^{いふ}。掛^か人^{にん}之^し。ち^ち。あ^あ之^し
ち^ち。あ^あ之^し。相^あ之^し。ち^ち。あ^あ之^し。是^{こゝろ}。憎^{にく}之^し。信^{しん}之^し
口^{くち}

おいまど止^{とど}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。故^{ゆゑ}之^し。あ^あ之^し。先^{まへ}人^{にん}之^し。馬^ば
鹿^か百^{ひゃく}韻^{いん}之^し。作^{つく}之^し。尻^{しつぽん}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。近^{ちか}ハ
宝^{たから}井^い大^{だい}通^{つう}山^{さん}入^{いり}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。品^{しん}川^{がわ}之^し。ち^ち。あ^あ之^し
ち^ち。あ^あ之^し。ち^ち。あ^あ之^し。領^{りやう}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。起^{おこ}之^し。
奠^{けん}街^{がい}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。老^{らう}没^{ぼつ}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。助^{すけ}六^{ろく}之^し。初^{はつ}日^{にち}之^し。寂^{さむ}
一^{ひと}之^し。く。大^{だい}山^{さん}代^{だい}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。ち^ち。あ^あ之^し。乃^{すなは}之^し。咄^{はな}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。功^{こう}成^{せい}
名^な之^し。遂^{すい}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。身^み之^し。退^{たい}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。輩^{はい}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。犯^{はん}之^し。ち^ち。あ^あ之^し。油^{あぶら}之^し
の

香を忘れ。清次が本田もひと
昔の噂とある。惜哉東都名物の
衰おとろへとある。半太夫おくおふあふれ
野呂間のりま再創さいしやうる。土佐外記の二流を
知る人希まじあり。願ねがき夷狄いてい乃曲と
遊あそむ一口も東都節の雅言みやご試
ふある。極たぎりと寒夜かんやと大形おほがたと脱ぬる

三件お手紙てめがをとも巻まくして。
さき世話せわと焼栗やき栗の杜撰ずせん呵あまを
遊栗あそ栗追栗おひ栗のいふんて誤あや白ま云いふ爾

彙軌本紀跋

孟晋須とふ華人の詞

曰居ハ氣瓜梅一春画ハ情依

寫才と凡大化とるの天下よ

ニツ西京リ堂塔伽藍あり

オ

浪花あり交易運遭あり智恵

と膽氣とて至てハ東都と疎

とま何國リたしや吾友

島田金若子具江都の

中央にありとる生一とる

おへ性根の七歩は進め後へ
 野狐の七歩は退れ難陀が口
 くり酒落は吐跋陀が口よ
 自慢は吐武藏野の系は腹
 富士は山と準少くもり。

聰明睿智いよの承知生れ
 る智慧の甲折常頭未結り
 育られ具丈三万二千丈
 の老翁千言んも云せ放屁儒
 有誤くくく。さあても長サぬ智

惠の海^つ 硯^{すゐり} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ}
 冠^{かむり} 冠^{かむり} 冠^{かむり} 冠^{かむり} 冠^{かむり} 冠^{かむり}
 角^{かく} 角^{かく} 角^{かく} 角^{かく} 角^{かく} 角^{かく}
 有^あ 有^あ 有^あ 有^あ 有^あ 有^あ
 の玉川^{たまがわ} 鮎^{あゆ} 水^{すい} 道^{みち} の水^{すい} のそれ^{それ} ナン

ナニ

中^{ちゆう} 中^{ちゆう} 中^{ちゆう} 中^{ちゆう} 中^{ちゆう} 中^{ちゆう}
 平^{へい} 平^{へい} 平^{へい} 平^{へい} 平^{へい} 平^{へい}
 屋^や 屋^や 屋^や 屋^や 屋^や 屋^や
 東^{とう} 東^{とう} 東^{とう} 東^{とう} 東^{とう} 東^{とう}
 北^{ほく} 北^{ほく} 北^{ほく} 北^{ほく} 北^{ほく} 北^{ほく}
 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ} 杖^{つゑ}

天明^{ていめい} 之^の 炭^{たん} 并^な 上^{じやう} 歳^{さい} 春^{しゆん} 女^{にょ} 女^{にょ}

くまがひ日



白跋

瀧盆ハ常小樂一に陽富ハ常リ
常小ハ性昔老夫山ハ紫川使書
川ハ洗濯するの用代りて天辺
棒上へそりるは定結り何らず
貧者ハ甲塩のそんまも貴一富者
ハ鋪のこぞ長壽なりと書一殊

の米ハ追れて腹中さむく百練
の美酒ハ了つて飲たはさす
堂たのり大富者なり何んや
古語ハ常命なり何川ハ所ハ集
山ハ紫川老夫川ハせんかく一
た即鬼ガ家へ渡りて美名よそ
不及に登一第根くこるちり

志

三所 甲辰 柴末 考考

島田金谷述



